木下小だより「あすなろ」

令和４年
１０月１７日号
（第９号）
印西市立木下小学校
児童数　２３１名

夏の暑さも和らぎ、一雨ごとに秋の気配が色濃くなっていくこの頃です。

さて、先日の運動会には、たくさんの保護者の皆様に御来校いただきありがとうございました。素晴らしい秋晴れの中、創立１５０周年の節目にふさわしい運動会となりました。閉会式での子ども達の顔は、どの子も自分の持てる力を出し切った満足感や達成感に満ちあふれていました。特に心を打たれたのは、高学年の「祝１５０　木下エイサー」と、全校での「ラストエール」です。高学年は「見に来た人に元気と勇気を与える・木下小の創立１５０周年をお祝いする・クラスを一致団結させる」を目標の一つとしエイサーを創り上げてきました。そして、当日、高学年の皆から伝わってくるエネルギーはその場にいた者の心に響き、保護者を含め木下小全員の心が一つになったと感じました。心が震えました。また、ラストエールからは、何十年も木下の子ども達を見守ってきたシンボルツリーくすのきと、丘の下に広がる「ふるさと木下」を大切に受け継いできた地域の方々、先人への感謝の思いが伝わってきました。改めて１５０年の重みを感じ、木下の教育に携わることができる幸せと責任を感じました。



運動会から２週間たった現在、子ども達は次の目標に向けて歩み始めています。運動会でつけた力を、学習面、生活面、様々な場で発揮してほしいと願います。そして、子ども達が安心して様々なことに取り組もうとする活力の源（みなもと）のひとつとして、日頃からの保護者の皆様の温かな励ましがあると考えます。深く感謝申し上げるとともに、引き続き各教育活動へのご理解ご協力をお願いいたします。教職員一同、保護者の皆様とともに笑顔が輝き活力あふれる木下っ子を育ててまいります。

心と心をつなぐハーモニー

２１日・丘の上コンサート





次の大きな学校行事は「丘の上コンサート」です。朝の会、帰りの会では、各教室から歌声が響いています。歌もまた素晴らしい表現活動です。特に学級・学年で創り上げる歌は、運動会の表現運動のように、仲間との一体感、学級・学年の所属感を高めます。声が重なり合うことで広がる音の厚み、深まる音の響き。一緒に歌う友達の声を聞いてほしい。声を聞くということは、友達の存在を感じるということ。安心して歌えるということは、自分を認めて受け入れてくれる仲間がいるということ。丘の上のコンサートを通して、木下小の絆をさらに深めてほしいと願っています。

合唱部もハートフルコンサート、そして郡大会を目指して毎日練習を積み重ねています。木下小に着任した日に聞いた校歌は大変美しい歌声でした。その歌声の中心となっている合唱部の皆さん。丘の上から、素敵な歌声を響かせてください。期待しています。

（校長　小林すみ子）